

調査研究報告書第2号

調 査 研 究 報 告 書

( その 2 )

昭 和 3 7 年 度

中 央 職 業 訓 練 所

### 編集にあたって

昭和36年4月1日、職業訓練に関する調査研究並びに職業訓練指導員の訓練を行なうため中央職業訓練所が設置され、前者の業務を担当するものとして同日調査研究部が発足した。翌37年度に到つて業務に対する予算的裏付けがなされ、I.L.O. 訓練資料のほんやぐ、作業分析、訓練効果の測定、中央職業訓練所及び附属総合職業訓練所の訓練生の素質並びに選考方法に関する考察、単純反復作業の練習曲線と準備性に関する予備実験、転職者訓練実態調査等を実施して来た。

本報告は37年度調査研究のうち作業分析についてとりまとめた。作業分析対象職種の作業範囲は非常に広く、何分にも日なお浅いために分析完了した作業はその職種の作業の一部に過ぎず、全般を包括する結論までには至っていないことを十分承知しているが、分析した限りにおいては真剣に現実を把握し、専門家の再三の校閲を得たもので誤りはないものと思う。

調査研究が単なる調査なり研究なりにとどまることなく、それが訓練実施のうえに活用され、より効果的な訓練実施を期待し得ることこそ本来の目的があることはもとよりのことで、今後継続研究するうえに十分な御意見を頂くため経過報告書として発表する次第で、本資料を訓練に実際に利用して戴いた上で真摯な気持ちで御批判を仰ぎ今後の充実を期させて頂きたいと思う。

なおこの研究において御協力を頂いた別記委員及びその所属事業場には厚く御礼申し上げます。

### 作業分析

目的 …… 実技訓練において、操作方法、勘所、所要知識を体系的に指導することにより、訓練を効果的ならしめるため、実際の作業について分析を行ない最も合理的、能率的な作業方法を求めようとするものである。

(最終的には実習指導要領としてとりまとめる計画である)

方法 …… 旋盤作業、仕上作業及び計測作業について現場経験11年程度の熟練工を対象に現場における実際作業について出来るだけ多くの要素作業を分析し、分析結果に基づいて事業場推せんの指導的熟練技能者(11名)を委員とする専門委員会に諮つて検討を加えたものである

### 委員

池貝鉄工(第二事業所溝ノ口工場)	祖父江	一	真
同 上	金子	千	秀
浦賀重工業(浦賀工場)	西坂	政	雄
同 上	笠原	進	一
富士電機製造(川崎工場)	南	清	市
同 上	高梨	正	吉
東京芝浦電気(本社教育課)	滑川	三	郎
同 上	鈴木	利	雄
日本光学工業(株)	落合	文	高
同 上	関	重	郎
日本車両製造(蕨工場)	戸部		清

### 分析者

調査研究部	研究助手	鈴木	木塚	佑子
	"	手塚	太	郎
	研究員	安江	節	夫
	"	近藤	英	一

### 援助者

中訓附属総合職業訓練所	教導	小島	信	勝
"	"	山	芳	治
"	"	遠	美	智
調査研究部長		松本		洋

### 総括者

目

次

旋盤作業の作業分析 .....	1 ~ 14
計測作業の作業分析 .....	1 ~ 4
仕上作業の作業分析 .....	1 ~ 15